

序

このたび、教育実践の記録を募集いたしましたところ、次のような7編の記録寄せられました。

一読総合法の指導について（国語科） 4編

生活単元を中心とする学習指導法（特殊教育） 1編

「工業の発達」の一指導事例（社会科） 1編……（注歴史的思考力の育成をめざして）

読解指導における一考察（国語科） 1編……（注語い指導を中心にして）

これらの実践記録で取りあげられた問題は、現在学校教育の中で問題になっている事柄につき、果敢に取り組み、指導をされた記録ということができますが、口に問題になっている事柄の実践記録と申しましても、いくつかの類型があるに考えられます。例えば、国語科の一読総合法や、社会科の「工業の発達」指導事例（歴史的思考力の育成）などの実践記録のように、現在の新しい教育潮流を取り入れるための努力を示したものと、特殊教育の生活単元学習や、国語の語い指導に関する実践記録のように、決して目新しいものではないが日々の実において、着実に指導しなければならず、しかもその中に困難な課題を含むるものについて具体的な指導のあり方を示したもの、などが考えられます。二つのいき方については、日々の教育研究、教育実践において二者択一でなく両者を合わせて思索、行動すべきでありましょうが、この7編の実践記録それぞれのいき方を具体的に示唆されたものとして高く評価できると考えます。

以上のような観点から、この実践記録を先生方にご熟読願い、現職教育の一資本でも活用願えたなら幸いに存じます。

昭和41年5月

足利市立教育研究所長 三 村 道 三 郎